



高齢者の予防訪問の有用性と効果効率的な運用に関する国際的研究

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科地域保健看護学 教授

佐々木 明子

本研究は、ヘッリ・キチノヤ、レイネ・ホレーナー、ハリエット・パーソン、小野ミツ、錦織正子、森田久美子、田沼寮子、遠藤寛子、飯島加奈子、と共同で行っております。

【ポスター -1】

わが国では介護保険制度を見直し、予防重視型のシステムに転換した活動を行っております。そのため、介護予防が必要な高齢者の把握とその支援を充実することが早急な課題ですが、充分に行われているとは言えないと思います。そこで介護予防の支援が必要な高齢者を早期に把握し対応するため、北欧等で制度化されているアウトリーチ型の高齢者全数への予防訪問の有用性と効果効率的な運用を国際比較により明らかにし、わが国の介護予防活動における予防訪問の施策化の方向を検討することを目的に調査を行いました。

【ポスター -2, 3】

研究方法ですが、デンマークとスウェーデンとフィンランドの3ヶ国およびわが国において調査を行いました。

北欧につきましてはデンマークと

ポスター 1

目的

- ・ 早期に介護予防の支援が必要な高齢者を把握し対応するため、北欧等で制度化されているアウトリーチ型の高齢者全数への予防訪問の介護予防への有用性と効果効率的な運用方法を国際比較により明らかにする。
- ・ わが国の高齢者の介護予防活動における予防訪問の施策化の方向性を検討する。

ポスター 2

研究方法

- 1) デンマーク調査:
 - (1) 市町村調査: Viborg市の統括看護師に、予防訪問の運用方法と実績に関する質問紙による聞き取り調査を実施。
 - (2) 高齢者調査: Viborg市内に在住する75歳以上の予防訪問を利用した高齢者に聞き取り調査を実施。
- 2) スウェーデン調査: 予防訪問実施市町村の状況について、文献検討及び先行研究を実施した専門家と看護職者より聞き取り調査を実施。

ポスター 3

- 3) フィンランド調査: 予防訪問実施市町村の状況について、Seinajoki市/Kauhava市の予防訪問の担当者より聞き取り調査を実施。予防訪問を利用した高齢者に聞き取り調査を実施。
- 4) 日本調査: 平成22年6月に全市区町村1,926ヶ所に郵送法で、高齢者の予防訪問の実施状況を把握する調査を実施。有効回答数は977ヶ所。

このうち、高齢者全数に予防訪問を実施していると回答があった市町村と近隣市町村15ヶ所に対して、平成22年9月～10月に聞き取り調査を実施。

フィンランドでは市町村調査と高齢者調査、スウェーデンでは文献研究と先行研究を実施した専門家の聞き取り調査を行いました。

わが国では、平成22年6月に全市町村1,926ヶ所に郵送法にて、高齢者の予防訪問の実施状況を把握するための調査を実施し、有効回答を977ヶ所から得ております。このうち、「高齢者全数に予防訪問を実施している」と回答があった市町村と近隣市町村15ヶ所に対して、平成22年9月～10月にかけて聞き取り調査を実施しました。

【ポスター -4】

各国における予防訪問の運用方法ですが、北欧3ヶ国に関しては、デンマークは法律で予防訪問が制定されており、その他は自治体の条例やモデル事業から開始されております。日本では「各自治体による」という状況です。

対象は概ね75歳以上が多く、「全住民を対象に」ということで行っております。

訪問は、各国とも保健師、看護師などの看護職が主に行っております。

訪問回数は概ね年1回程度です。

訪問は、デンマークは会話が中心ですが、日本やフィンランド、スウェーデン等は質問紙等を活用しております。

【ポスター -5】

ポスターの表2に関してですが、デンマークにおける予防訪問の効果を高齢者側から評価しますと、10人の高齢者のインタビューで、日常生活面や健康面で非常に有効だったという者がそれぞれ9人ずつおり、10人という限られた人数ではありますが、有効であると言えます。

日常生活面での効果では、「前向きな気持ちになった」等があげられております。健康面での効果としては「健康についての不安を軽減できた」ということ。それから、予防訪問についての利点や要望の中では、「訪問回数を増やして欲しい」等があげられております。

【ポスター -6】

実際にデンマークの一つの市の予防訪問の実績をみますと、訪問後に53項目実施した

ポスター 4

各国における予防訪問の運用方法				
表1 北欧3カ国と我が国の予防訪問のシステム				
	デンマーク	フィンランド	スウェーデン	日本
実施根拠 (実施年)	法 (1997年～)	各自治体の条例 (2004年～)	21の自治体における モデル事業開始 (1999年～) 2008年より強化	各自治体による
対象	75歳以上の全住民	75歳以上の全住民 (サービス利用者の ない者)	概ね75歳以上の住民 (サービス利用者のな い者)	概ね65歳以上の者 (自治体による)
主たる 訪問者	訪問看護師等	保健師・看護師等	地区看護師等 (District Nurse)	自治体により様々 (保健師、看護師等)
訪問回数 (年)	1回 (自治体により 2回実施もあり)	1回	3～4回程度	1回程度
訪問時間	1時間/回	1.5～2時間/回	概ね1時間/回	30分～1時間程度
訪問時の アセスメント 方法等	会話中心	質問紙	質問紙	自治体による

ポスター 5

デンマークにおける予防訪問の効果－高齢者による評価－				
表2 高齢者からの評価 n=V市高齢者10人表3 日常生活面での効果 (複数回答)				
予防訪問の有効性	非常に有効	有効		
日常生活面	9人	1人	前向きな気持ちになる	5人
健康面	9人	1人	積極的に外出する気持ちになった	5人
表4 健康面での効果(複数回答)				
健康についての不安を軽減できる	9人			
自治体のソーシャルサービスを利用できる	8人			
健康についての情報を手に入れる事ができる	8人			
早期に身体の変化に気づくことができる	2人			
表5 高齢者が感じる予防訪問の利点と要望				
<ul style="list-style-type: none"> ・必要な部分で日常生活を変える事ができる ・問題を一緒に話し合っ解決策を見つけるためことができる ・予防訪問の担当者にいつでも電話できる ・誰か話す人がいることが良い ・訪問回数を増やしてほしい 等 				

内容があげられておりますが、会話の内容の中心としては移動手段の支援であったり、コーピングの支援、アクティビティの提案、転倒予防等が多く行われております。このようなことで、高齢者の自立支援について有効な内容の支援が行われていると考えられます。

それから予防訪問の効果について、スウェーデンに関してみますと、同様に「高齢者のニーズを早期に把握することができる」、あるいは「食事や薬の服用についての助言ができる」等があげられています。

それから表8に予防訪問の有用性を掲げました。これはShalenらの研究からみたものですが、費用対効果があり、医療や高齢者ケアにおいても有効な活動であるということがあげられております。

【ポスター-7】

フィンランドは表9、表10、表11に掲げております。前年と比較して訪問前と後でみますと、「良くなった」というのが1割、「同様である」が7割近く、「悪くなった」というのが2割近くおりましたが、概ね維持できているという割合が高いことから、訪問活動が高齢者にとっても有効であると考えられます。

それから、訪問後に高齢者が利用したサービスですが、運動を中心としたグループ活動や医療への早期アクセス、認知症の早期相談等、早期対応へつながっていることがあげられております。

【ポスター-8】

わが国における予防訪問の効果としては、表12と表13に掲げました。

これは8カ所の保健師からの聞き取りですが、全数に対して予防訪問を実施している市町村の例で、実際

ポスター 6

デンマークのV市の 予防訪問の実績		スウェーデンにおける 予防訪問の効果	
表6 予防訪問中の会話の内容 (2010年4月1日～9月1日)		表7 予防訪問の効果(K市の例)	
上位10項目 N=724 (複数回答)		・高齢者のニーズを早期に把握することができる ・食事や薬の服用について、助言ができる ・新たな触れ合いを築き、孤独に陥らないように、地区の集いの場を紹介できる ・高齢者が慣れ親しんだ日常生活・生活を可能な限り維持することにつながる 等	
内容	n(%)	表8 予防訪問の有用性 (Shalenらの研究)	
1 移動手段 (無料)	341(47.0)	・予防訪問利用者の死亡率を低下することができる ・予防訪問利用者は、救急外来の受診率が低く、ホームヘルプサービスの利用する割合が低い ・医療と高齢者ケアにかかる費用において、費用対効果がある	
2 ライフヒストリーとコーピング	262(36.2)		
3 アクティビティの提案	195(27.0)		
4 転落防止とバランス	187(26.0)		
5 住宅の改修・新築	165(22.8)		
6 運動	162(22.4)		
7 疾患と活動力不足	147(20.0)		
8 助成金付追加ホームヘルプ	126(17.4)		
9 補助具	122(17.0)		
10 補助具センターへの紹介	110(15.0)		

ポスター 7

フィンランドにおける予防訪問の効果 (実績)			
表9 昨年(予防訪問前)と比較した 健康状態の変化		表10 昨年(予防訪問前)と 比較した社会的変化	
	n (%)		n (%)
大変良くなった/まあ良くなった	27 (10.6)	増えた	12 (4.7)
同様である	173 (68.1)	同様である	169 (66.5)
悪くなった/大変悪くなった	54 (21.3)	減った	73 (28.7)
合計	255 (100)	合計	254 (100)
表11 予防訪問後、高齢者が利用した主なサービス(複数回) (n)			
運動を中心としたグループ活動	(41)	社会保険協会への参加	(14)
病院への通院	(29)	ホームクリーニングサービスの導入	(14)
医療スタッフへの相談	(26)	Kakeskus(市営のデイケアクリニック)の利用	(11)
認知症専門看護師(Memory Nurse)への相談	(24)	伝言サービスの利用	(11)
追加の聴力検査	(23)	物理療法士の利用	(9)
レクリエーションを中心としたグループ活動	(16)	視聴覚補助機器の利用	(7)
福祉支援に関する機器の導入	(15)	喘息ケア看護師の利用	(7)
歯科医院への通院	(14)	追加の視力検査	(6)

ポスター 8

日本における予防訪問の効果	
表12 予防訪問の身体的・ 精神的な健康面への効果	表13 予防訪問の高齢者の 保健活動への効果
1. 高齢者の安心感の保持・ 不安の軽減	1. 医療費・介護費の抑制
2. 高齢者の疾患の早期発見 と対処	2. 健康寿命の延伸
3. 高齢者の生活機能の維持・ 向上	3. サービス導入
4. 高齢者の閉じこもり予防・ 改善	4. フォロー体制の確立・ 強化
5. 高齢者の気分の改善、 うつ予防	5. 高齢者への情報提供
6. 高齢者の行動変容	
	※高齢者全数への予防訪問の取り組み を実施している8市町村における、事業 統括保健師からの聞き取り調査より

に保健師側としては高齢者の安心感の保持・不安の軽減、疾患の早期発見や対処等に有効であるということ、それから、医療費・介護費の抑制にもつながっている等があげられております。

【ポスター -9】

まとめです。

高齢者全数に対する予防訪問は、各国とも健康状態や生活上の課題を早期に把握し、高齢者の心身の健康の維持・増進、介護予防に寄与する活動でした。

このようにニーズを早期に把握し早期に対応することによって、現状の改善につながる有効な活動であると考えられます。

予防訪問は、救急医療にかかる回数の減少や、医療費、介護費の抑制につながることも示唆され、費用対効果も高いことが明らかとなりました。

実際に予防訪問を利用した高齢者からも、健康面や生活面における有用性が認識されました。また、今後、予防訪問の回数を増加してほしい等の要望が把握できました。

このように高齢者に対して健康の維持増進、介護予防に寄与する活動を日本においても制度化し、推進していく必要があると考えられます。

今回この研究を実施するにあたり、ファイザーヘルスリサーチ振興財団に多大なる支援を頂きました。どうも有り難うございました。

ポスター 9

まとめ

1. 高齢者全数に対する予防訪問は、各国とも健康状態や生活上の課題を早期に把握し、高齢者の心身の健康維持・増進、介護予防に寄与する活動であった。
2. ニーズを早期に把握し早期に対応することにより、現状の改善につながる有効な活動であると考えられた。
3. 予防訪問は、救急医療にかかる回数の減少や、医療費や介護費の抑制につながることも示唆され、費用対効果も高いことが明らかとなった。
4. 予防訪問を利用した高齢者からも、健康面や生活面における予防訪問の有用性が確認された。また、予防訪問の回数を増加してほしい等の要望が把握できた。

質疑応答

会場： この訪問に関して、それぞれの国の一人の担当者（看護系の方）が何人の対象者を担当しているかという、その比較を知りたいと思います。たぶん日本は非常に多いと思うのですが、それに比べて北欧はどうかということを教えていただきたい。

佐々木： 北欧でも結構多く、1人あたり20人から50人とか、受け持っております。デンマークの場合は3人がチームになっている状況も把握されております。

平野： 日本でも、出来ているところは人員的に充実しているのでしょうか。

佐々木： はい、特に訪問専門に看護師を置いて、保健師がそれを統括しながらやっているところはスムーズに行われているように思います。出来ていない市町村にその理由を聞きましたら、やはり人的な資源不足で出来ていないというのが7割くらいおりましたので、やはり、特に看護職者の人数を増やしていくことが重要であると思っております。

平野： 人を雇う経費であるとか、今後日本が実現するには、いくつか課題があるかと思えますね。